

平成 6 年 5 月 15 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

宮の平トンネルは齢 80 歳

私の父が生前よくした思い出話の一つに、青梅線の宮の平駅のトンネルの話があります。

父が小学校 6 年の時遠足は目的地が日向和田で、青梅駅から日向和田駅まで鉄道を利用したのだそうです。その事前指導で先生が「今度の遠足で新しくできたトンネルを通るが、トンネルの中は鼻をつままれてもわからないほど暗い」と離されたので、トンネル内で友達どおしで鼻のつまみあいをしたというのです。父の酔余の話に過ぎないのですが、実は「青梅鉄道三十年詩」には次のような事が書かれています。

日向和田駅移転線路一部変更

時勢の進展は益々石灰石の需要増加を来し、西部終端駅たる日向和田駅は其規模狭隘きょうあいにして能く其需要を充す能はず且つ其位置は青梅街道に隔てり運輸交通不便なりしを以て更にずいどう隧道 1007 呎くっさくを掘鑿して新線を延長し、共終点に日向和田停車場を移転するの許可申請をし明治 45 年 5 月 2 日許可となりたるを以て直ちに之が工事に着手し大正 3 年 4 月 1 日現在の位置に移転してるものなり。

すなわち青梅線開通当初の日向和田駅は、手ぜまでもありかつ青梅街道からすこしはずれたところにあつて不便なので、大正 3 年にトンネルをつくり、今のところに移したというのです。

父は明治 36 年生れ、従って小学校 6 年生の時が大正 3 年で、丁度トンネル開通の時に符号します。先生方はきっとトンネルの開通で青梅線が延長されたのを機会に、日向和田への遠足を計画されたのでしょう。因みに、青梅線が電化されたのは大正 12 年のこと、したがって大正 3 年の頃はトンネル内を走るにも車両には明かりはなく真っ暗だったのです。そこで鼻をつままれても分からないという事になるわけなのです。このトンネルの長さは 1007 ^{フィート} 呎 といひますから約 296m。ちょうど今年が開通してから 80 年目に当たるのですね。

せっかくですのでもう少し青梅線についてふれましょう。

青梅線が開通したのは明治 27 年のこと、11 月 19 日に立川・青梅間、つづいて翌年 12 月 15 日に青梅・日向和田間が開業しました。日向和田は現在の和田神社裏・旧青梅 1 小日向和田分教場の位置にあり石灰石運搬専用の駅だったのですが、明治 31 年から一般貨物と旅客の取扱いもするようになりました。そしてトンネル開通によって現在地に移転したという経緯もっています。日向和田駅移転と同じ日に宮の平の駅も開かれました。そしてここも大正 12 年まで貨物だけ取扱う駅でした。

まさに「青梅線 石より人が 安く見え」（青梅線開通当時の川柳）ですね。

(文責 野村慎三郎)

東京都指定史跡の「青梅新町の大井戸」と「勝沼城跡」に文化財解説が設置されました。

指定文化財の塩船観音寺薬師堂(有文)、玉泉寺(旧跡)、梅岩寺のシダレザクラ(天然記念物)、薬王寺銅鐘(有文)、薬王寺(史跡)には内容を充実させた文化財解説板が新たに設置されました。見学時には、どうぞ御参考になしてください。